

Since 1976

横浜市立元石川小学校

令和3年1月29日



学校だより

2月号

Email y3motois@edu.city.yokohama.jp

HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motoishikawa/>

横浜市青葉区美しが丘4-31-1

TEL 045(902)1821

早渕川

副校長 松久保 伸子

1年ほど前に学区の中央を流れる早渕川の水源を目指して、早渕川ファンクラブの方を講師に子どもたちと往復2時間の校外学習に出かけました。「覚永寺下」の交差点から「平川の薩摩灯笼」のわきを進んでいくと、川は目の前にあり、せせらぎの音が心地よかったです。そのまま「保木公園」の近くまで歩くと、地面から水が湧き出ている様子も見られました。しかし早渕川の水源はここではなく、水源と言われている最終目的地の「早渕公園」まで坂をのぼり歩きました。そこはすでに公園になっていて水が湧き出る様子が見られず、みんながっかりしていると、講師にさらに坂をのぼるよう促され、川崎市と横浜市の市境に到達しました。

「ここに降った雨の一粒が、横浜市側に落ちれば鶴見川に、川崎市側に落ちれば多摩川になるんだよ。分水嶺というんだよ。」

教えてもらった分水嶺に立ち、不思議な感覚を覚えたことが忘れられません。水源こそ今では見る事ができなくなりましたが、壮大な水の旅の第1歩を踏みしめることができました。ここから水は地にもぐり、地面に湧き出してせせらぎとなり、大きな流れとなることを繰り返して海に出て、蒸発して雲になり、また雨粒となって地にもぐる。めぐりめぐっていろいろな経験を重ねた水は、また戻ってきます。そして水源付近の分水嶺は、流域の一番高い場所です。鶴見川と多摩川が注ぎ込む遠くて見えない東京湾をイメージしながら、「長い旅をする君は、偉大だよ。」と水に語りかけたくなりました。



子どもたちも、めぐりめぐって1年ずつ学年が上がるごとに成長していきます。水に例えれば2月は海に近づいたところでしょうか。大きな海に出ていくところです。学級・学年でのまとめに取りかかります。そして4月再び新しい分水嶺に立つのでしょうか。毎年同じようなステップを踏みながらも経験を重ね、その幅や深みを増していく成長は、毎日見ていると



気づきにくいものですが、昨年と比べてみるときっと大きなものになっているのではないのでしょうか。子ども自身が気づきにくい自分の成長を、言葉に変換して気付かせてあげたいものです。そのためには一歩高い位置から俯瞰して、子どもの成長を見ていくことも必要になると感じています。私も子どもたちの成長をたくさん見つけて、言葉かけていく2月にしていきたいと思います。